

かや 榎りぼーと

第 32 号

平成20年度 埋蔵文化財の発掘調査について

埋蔵文化財とは「土地に埋蔵された文化財」のことで、住居跡、貝塚、古墳などの「遺構」と土器、石器などの「遺物」のことを言います。祖先が営んでいた生活の直接的な資料であり、地域の歴史や文化を知ることのできる貴重な財産です。

埋蔵文化財が所在する可能性の高い範囲を「埋蔵文化財包蔵地」と呼びますが、一般的には「〇〇遺跡」と呼ばれています。この埋蔵文化財包蔵地は、さいたま市内で現在1,126箇所が周知されています。

埋蔵文化財は一度壊れてしまうと、二度とは戻せないものです。現状のまま保存できることが望ましいのですが、やむを得ず埋蔵文化財が壊されてしまう場合には、事前に記録として保存する、発掘調査を実施しています。

平成20年度はさいたま市教育委員会9件、さいたま市遺跡調査会21件、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団3件の発掘調査が実施されました。これらの成果の中から主な発掘調査をご紹介します。

しものだいなりほらいせき 下野田稲荷原遺跡の調査〈緑区〉

緑区大字下野田に所在する遺跡で、埼玉高速鉄道浦和美園駅から南西300mほどのところにあります。この遺跡は見沼の低地と綾瀬川に挟まれた南北に細長い大宮台地鳩ヶ谷支台に立地しています。

今回の調査は区画整理事業に伴い、さいたま市遺跡調査会が9月から12月にかけて実施しました。調査の結果、縄文時代早期ファイヤーピット2基、弥生時代後期から古墳時代前期住居跡34軒、弥生時代後期から古墳時代前期の溝2条、平安時代の住居跡3軒、平安時代の土坑1基、平安時代以降の溝1条、中世以降の土坑12基、中世以降の溝2条などが検出されました。弥生時代後期の溝はV字形でムラの周り（かんこう）を囲う環濠の可能性がります。



▲調査区全景



▲土器の出土

さくらやま かいづか

桜山貝塚の調査〈岩槻区〉

岩槻区諏訪3丁目に所在する遺跡で、東武野田線東岩槻駅の北1km程のところにあります。この遺跡は大宮台地慈恩寺支台の南端に立地しています。

今回の調査は個人住宅の建設に伴い、さいたま市教育委員会が4月から5月にかけて実施しました。今回調査した場所の一部は昭和60年に旧岩槻市教育委員会が確認調査を実施しており、その時に確認された縄文時代前期の住居跡1軒を調査しました。住居跡の中にはカキ・ハマグリ・ハイガイなどの貝が厚く堆積していました。



▲貝層の様子(断面)



▲貝層を掘りあげた住居跡

ねぎり いせき

根切遺跡の調査〈西区〉

西区大字植田谷本から大字島根にかけて所在する遺跡で、JR東北本線大宮駅の西南3km程のところにあります。この遺跡は鴨川の右岸、旧入間川の流路に沿って形成された微高地の自然堤防上に広がっています。

今回の調査は個人専用住宅2軒の建設に伴い、さいたま市教育委員会が5月と9月から10月に実施しました。第9次の調査では弥生時代のムラの周りを囲う環濠の可能性のある溝や古墳時代中期の住居跡4軒などが検出されました。住居跡からはガラス玉が出土しました。また、高坏形土器、甕形土器などの完形・完形相当の土器が25個体出土しました。第10次の調査では古墳時代後期から平安時代の住居跡4軒などが検出されました。住居跡から須恵器の大型の甕形土器や鉄製の鎌が出土しました。



▲出土した土器(第9次)



▲出土した甕形土器(第10次)

おおぎたい いせき

大北遺跡の調査〈緑区〉

緑区東浦和3丁目に所在する遺跡で、JR武蔵野線東浦和駅の北西700m程のところにあります。この遺跡は大宮台地浦和支台の東部の舌状台地上に立地しています。

今回の調査は、集合住宅建設事業に伴い、さいたま市遺跡調査会が11月から12月にかけて実施しました。これまでの調査で旧石器時代から弥生時代の遺構や遺物が確認されています。調査の結果、縄文時代早期の住居跡5軒などが検出されました。縄文時代早期の住居跡がまとめて検出されるのは珍しいことです。



▲発掘調査の様子



▲縄文時代早期の住居跡

なかの だほりの うちいせき

中野田堀ノ内遺跡の調査〈緑区〉

緑区大字中野田に所在する遺跡で、埼玉高速鉄道浦和美園駅から北へ1.5km程のところにあります。この遺跡は見沼の低地と綾瀬川に挟まれた南北に細長い大宮台地鳩ヶ谷支台に立地しています。

今回の調査は区画整理事業に伴い、さいたま市遺跡調査会が9月から10月にかけて実施しました。調査の結果、縄文時代後期の住居跡2軒、古墳時代中期の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒などが検出されました。古墳時代の住居跡は1辺8mほどの大きな住居跡で、この住居跡から完全な形の高環形土器などが多く出土しました。この遺跡では規模の大きい古墳時代の住居跡が過去の調査でも検出されています。



▲古墳時代の住居跡



▲出土した土器

ふないさんちょうめいせき

府内三丁目遺跡の調査〈岩槻区〉



▲調査区全景



▲出土した板石塔婆片

岩槻区府内3丁目に所在する遺跡で、東武野田線岩槻駅の南東2.3km程のところにあります。この遺跡は大宮台地の東縁部の岩槻支台に立地しています。

今回の調査は工場建設事業に伴い、さいたま市遺跡調査会が12月から1月にかけて実施しました。調査の結果、縄文時代早期の住居跡2軒、平安時代の住居跡2軒、中世の掘立柱建物跡4棟以上、井戸跡2基、中近世の柱穴群600本以上などが検出されました。中世の井戸跡からは板石塔婆片や瓦、播鉢などが出土しました。600本以上の柱穴群の中には掘立柱建物跡の柱穴を含むと考えられ、さらに多くの掘立柱建物跡が存在する可能性があります。

TOPIC

- 各区において「文化財防火デー」に伴う防災訓練が実施されました。

昭和24年1月26日の法隆寺金堂壁画の焼損をきっかけに、昭和25年に文化財保護法が制定されました。昭和30年には、1月26日を「文化財防火デー」と定め、貴重な文化財を火災や震災などから守るために、毎年、全国的に文化財防火運動が行われます。市内でも、この日を中心に各区の消防署主催で、文化財所有者、地元消防団、近隣自治会の協力のもと、防災訓練等を実施しました。



▲消火訓練の様子（浦和区・東泉寺）

ご存知ですか？～指定文化財のホームページ～

文化財保護課では、さいたま市のホームページで市内に所在する指定文化財を紹介したり、無形民俗文化財の公開の情報を提供しています。最近では、所有者・関係者の方々や保存会で自らホームページを開設していらっしゃる場所もありますので、2件ご案内いたします。

◆駒形の祭ばやし（市指定無形民俗文化財）

〈駒形ばやし保存会〉

映像付きのお囃子演奏が聴ける他、練習風景や地元の祭りの様子など、保存会ならではの視点から紹介しています。

HPアドレス <http://blog.livedoor.jp/komagatabayasi/>

検索サイトで「駒形囃子」でも探せます。



◆御蔵のクマガイソウ・御蔵のイカリソウ

（市指定天然記念物）

4～5月の開花期のみに更新されますが、個人宅の敷地内に自生しているため、所在地への経路が写真付きで丁寧に説明されています。

HPアドレス <http://www8.ocn.ne.jp/~e3ktuba3/>

検索サイトで「みくらのくまがいそうといかりそう」でも探せます。



お知らせ

市内各所において開催されるお祭などで、指定文化財が公開されますので、ぜひお出かけください。なお、天候などにより日程を変更することもありますので、詳しくはさいたま市のホームページをご覧ください。当課までお問合せください。

期 日	名 称	時 間	場 所	内 容 等
5月17日(日) 〔予定〕	南部領辻の獅子舞	①10時～ ②13時～	①鷲神社(緑区南部領辻2941) ②南部領辻地区内	勇壮な獅子舞が公開されます。(雨天中止) 春の祭礼は鷲神社を出発し、南部領辻地区内を廻る村祈祷があります。

文化財紹介

ばんば おむろ やま い せき —馬場小室山遺跡出土土偶装飾土器・人面画土器—

県指定有形文化財(考古資料)(平成10年指定)

人面画土器は、緑区三室の馬場小室山遺跡から、昭和57年の発掘調査で発見された縄文時代晩期の深鉢形土器です。正面に人面を大きく描き、ひげ、まゆげ、まつげなどをつけている他、左に髪をなびかせたような表現をしており、原始絵画として当時の風俗を知るうえでも貴重な資料です。同じく馬場小室山遺跡から出土した、土偶装飾土器と共に県の文化財に指定され、市立浦和博物館(三室)で常設展示しています。

今秋には、人面画土器が遙か海を渡り、大英博物館で展示(仮称・土偶展)される予定です。しばらく旅へ出かけてしまう前に、ぜひ間近でご覧ください。



▲人面画土器

さいたま市文化財時報

樞りぼーと

第32号

平成21年3月27日

〔編集・発行〕

さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723 ㊟048-829-1989
<http://www.city.saitama.jp/>